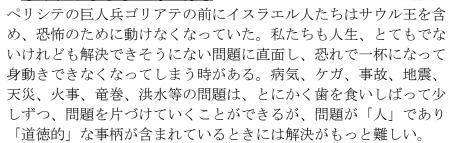
マナ 095

2010年10月31日

【先週のメッセージより】第一サムエル17章 ダビデとゴリアテ

1) 私たちは人生のゴリアテに立向かわ なければならない時がある



2) クリスチャンは異なった方法/神の知恵と力で戦う

兵士対兵士という組み合わせでゴリアテと戦って勝てる人はイスラエルには誰もいなかった。しかし暇な時間を見つけては投石器で石を的に当てる練習をしてきた羊飼いダビデにとり、ゴリアテの無防備な額は決定的な弱点と映った。神が自分の味方になってくださることを知っており、実際に熊やライオンと戦って倒してきた経験のあるダビデには恐れはなかった。ダビデはサウル王が差しだした鎧と剣を断り、石投げ一つで見事ゴリアテを倒すのであるが、クリスチャンもダビデのように困難な問題に出会う時に、世の中と同じ方法では戦わず、聖書を通して神が教える方法で問題に立ち向かう。憎む代わりに愛する。仇討ちの代わりに復讐は神に委ね、赦しに生きる。説得の代わりに執り成して祈る。クリスチャンとしての戦い方を身につけ、神が味方であることを知るならば恐れは無くなる。

3)神の栄光と尊厳のために戦うクリスチャン

尊敬する人を誰かが悪く言っているのを聞いたなら、私たちはその



人の名誉のために反論するだろう。 ペリシテ人たちは神を侮り、当のイ スラエル人は神に信頼していなかっ た。ダビデはそのような状況の中 で、憤りを感じ、神の尊厳のために 戦う決心をする。私たちもその姿勢 に学び神の栄光と尊厳が世の中で回 復されるよう戦うようでありたい。

【今週の暗唱聖句】第一コリント10:13

- 「あなたがたの会った試練はみな人の知らないものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えられないほどの試練に会わせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます。」
- ●英語では「No temptation has seized you except what is common to man. And God is faithful; he will not let you be tempted beyond what you can bear. But when you are tempted, he will also provide a way out so that you can stand up under it.」 <u>試練という語が英語ではTemptation</u>(誘惑)と訳されているに気付かれるであろう。実はギリシャ語の「ペイラスモス πειρασμος」という語は試練とも誘惑とも訳せるのであり、他言語に翻訳する時は、文脈によって訳し分ける。新改訳も新共同訳も両方「試練」と訳しているが英語の聖書は大方「誘惑」と訳している。ではどんな文脈なのか。 I コリント10章には、古代イスラエル人達がエジプトから救出されたにも関わらず、むさぼりの罪(6節)を犯し、偶像崇拝に陥り(7節)、姦淫を行い(8節)、神を試み(9節)、つぶやいて(10節)、神に対して罪を犯し続けた様子が描かれている。イスラエル人たちは誘惑された時、ことごとくそれらの誘惑に屈してしまい、その結果、多くの人々が約束の地に入れず、荒野で滅びたとここで説明されているのである。
- ●10:11には「これらのことが彼らに起こったのは、戒めのためであり、それが書かれたのは、世の終わりに臨んでいる私たちへの教訓とするためです。」と書かれているように、「救われても様々な誘惑に会いますよ・・・でもイスラエル人たちのように倒れないようにしなさい。」と使徒パウロは奨めているのである。そして暗唱聖句となっている13節の直後で「ですから・・・偶像礼拝を避けなさい」と結んでいることからしても、13節に出てくる「ペイラスモス」は「罪を犯す誘惑」を指していると考えたほうが文脈にかなっていることが分る。
- ●日本語の「試練」も英語の「Trial」も、病気とか、飢饉、天災等を指して使うことが多いが、この場合、人間の道徳性を問われる「誘惑」は意味していない。ゆえにこの御言葉は、地震や病気のような試練に会った時のことよりも、むしろ姦淫の誘惑や、神に対して不信感を持つ誘惑や、感謝しない誘惑、人を裏切る誘惑、自己中心を選ぶ誘惑、不当なことをした相手を赦すより憎むことを選ぶ誘惑。等々を意味しているということを覚えたい。そのような誘惑が来る時、罪を犯さないで済む方法を神が確実に備えてくださる、と神は約束して下さっているのだ。この神に従いしっかり誘惑と戦って行こう。■